

会 議 録

令和元年 11 月作成

審議会等名	令和元年度 第 2 回 図書館協議会臨時会
公開の別	全部公開
開催日時	令和元年 8 月 28 日 (木) 午後 2 時～ 4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	1 名
出席者氏名	<p>【協議会委員】 倉品章委員長 長谷川優子副委員長 小林委員 小黒委員 関谷委員 山田委員 六原委員 松原委員</p> <p>【説明のための職員】 恋塚生涯学習課長 笹倉生涯学習課長補佐 今井生涯学習課主任</p> <p>【指定管理者】 石原館長 中野業務責任者 村山副責任者 梅田副責任者</p>
協議題	新図書館等複合施設建設計画（案）についての意見交換
石原館長	<p>(あいさつ)</p> <p>それでは、倉品委員長に以降の進行をお任せしたい。</p>
倉品委員長	最初に資料の説明からお願いしたい。
笹倉課長補佐	(「新図書館等複合施設建設計画（案）について」の資料に基づき説明)
倉品委員長	以降は、複合施設としての位置とか大きさについて、次に図書館のハード面について、ソフト面について、その他気付いた事、これらを軸に話を進めたい。まず、複合施設としてのハード面について、平面図を見ると分かりやすいが、実験室の場所は決定事項なのか。児童コーナーと交換はできないのか。
笹倉課長補佐	ほぼ基本設計として固まりつつあるところだ。もともとのコンセプトである、来館者が鍛冶ミュージアム・科学教育センターの子ども達の活動状況が見え、互いに刺激し合う関係を意識した中で配置を考えた結果、この形になった。
倉品委員長	科学実験室はグラウンドが見え、良い場所にある。ここで子どもたちが本を読む姿が見えると、散歩している人にもよい風

	景だ。
笹倉課長補佐	科学教育センターは、三条市内の全ての小中学校の理科の授業として使用するため、平日はそれぞれの学校が入れ替わりながら利用することを想定しており、かなりの頻度で子どもたちがここに来て勉強をする。
倉品委員長	イメージでは、イベント的に講師を呼んで実験などをするものと考えていたが違うのか。
笹倉課長補佐	そういったイベントや学校ではできない大規模な実験は、多目的ホールを使ってもらおう。
今井主任	実験室の広さの根拠としては、最大規模の学校の40人2クラスが同時に入れる大きさにするためである。
小林委員	新しく使い勝手が良ければそのようになるかと思うが、現状として理科センターはそんなに多くは使っていない。
倉品委員長	毎日オープンできるほど、生徒や児童が来るのか。校外学習は時間がかかり、敬遠するところも多いのではないのか。
山田委員	なぜここに来て理科の実験をやらなければならないのか。自校の理科室ではできないのか。
笹倉課長補佐	学校ではできない実験をしたいということだ。
倉品委員長	それはない。カリキュラムの中にある実験用具類は、みな揃えているはずだ。学校でできない実験や学習はないはずだ。
笹倉課長補佐	基本計画に記載してあるが、現在は科学教育センターではなく、理科教育センターという名称で第二中学校の中にある。それとは別に科学教育推進事業事務局が栄庁舎内の教育委員会にあり、それぞれ連携しにくい状況である。これらを一本化した形で新たな施設に持っていきたい。また、子ども達の授業で使うということだけが目的ではなく、教員の理科の授業の仕方の研修などにも使ってもらおうことを想定している。
今井主任	資質向上のための場でもある。
笹倉課長補佐	科学教育センターが来たために図書館の面積が削られたということはない。図書館で必要な面積と科学教育センターで必要な面積を予め確保した上で、トイレや廊下といった部分は共有するため安くでき、特に面積を削ったというわけではない。鍛冶ミュージアムと科学教育センターはそれぞれ必要性をもって今回計画した。
六原委員	鍛冶ミュージアムと理科実験室は囲われているのか。
笹倉課長補佐	鍛冶ミュージアムは開放的になっていて、どちらかという、

	図書館のエントランスが鍛冶で飾られているというイメージが近い。
今井主任	鍛冶の歴史をVR機能で再現し、映像で見せるということを考えている。
六原委員	地場産業振興センターの中にある映像システムのようなものか。
笹倉課長補佐	それに近いこともするのかもしれない。実験室については、実験という性質上、壁で囲む。真っ暗にすることも可能にする必要がある。
六原委員	会議などを行う部屋が少ないため、理科実験室が空いている場合には使えるようにしてもらいたい。先程の話では、毎日授業が入るとのことだ。
今井主任	基本的に、授業は午前中に計画するという話を聞いている。午後の時間帯は空く。
六原委員	椅子や机は可動式ではないため、今後別の形で利用するのが難しいのではないか。使われなくなった際に、いかようにもできるようにしてほしい。
笹倉課長補佐	科学教育センターは、人が来るための施設というより、授業や教員の研修の場として想定している。
山田委員	学校がある平日に教員の実験の場として使われるかという点、それほど使われないのではないか。子どもは使うかもしれないが、教員は子どもが休みの時に使うしかない。
笹倉課長補佐	教員の使用は夕方以降と聞いている。
山田委員	理科室というと、不燃性のテーブル、ガスバーナーのガスのコックが出ていて薬品臭いという印象。本を読みたいような雰囲気ではない。子どもが本を読めるようなスペースはあまりない。
長谷川副委員長	1階の机があるが、席数としてはどのくらいか。
山田委員	実験室は、書架や子どもの本を読むスペースとしては再利用しにくい。「学習室として利用できる」と机上の空論のように謳うのはどうかと思う。
六原委員	逆に理科スペースで、児童書「かがくのとも」にあるような簡単な実験をしながら絵本の読み聞かせを行えるようなものだと使いやすい。お話の部屋内で、お話が終わるまでロウソク使用は可能か。紙が多い場所だから駄目だというが、特殊なスプリンクラーで消してくれるようなものがあると良い。

笹倉課長補佐	それを実験室でやっていただく分には構わない。今の施設は換気もしっかりしている。実験室の学習利用も、本来の学習スペースから利用いただいた上で混雑時の対応としたい。
六原委員	科学教育センター、鍛冶ミュージアムとでは、それぞれ運営母体が違う。事務室では各施設の職員が同居しているのか。実験室など、各部屋の使用申込などの際は、管轄による不便が無いようにしてほしい。そうでなければ複合施設の意味がない。
笹倉課長補佐	管理については、3つの施設を一括で管理する。施設ごとのスタッフはいるが、建物、ハードの管理については一元化する予定だ。
六原委員	現在運営管理をしているのは TRC だが、意思の疎通など現場との話し合いはしているのか。現段階では、私が知る限りしていないようだ。運営方法については、2年間は現行の運営方法で、その後2年間新館完成手前からは別体制で行うとあった。そのときに TRC の契約を終了し、三条市の直営という形になるのか。その兼ね合いで TRC が相談できないようになっているということでは困る。
笹倉課長補佐	TRC には多少相談している。
六原委員	運営する側に対し「建物は作った。さあ、やれ」というわけにはいかない。「使い勝手は悪いが、作ってやったのだからやりなさい」というのは、民主的ではないと思う。
恋塚課長	毎月1回、TRC と生涯学習課で1カ月の報告がある。出来事や来館人数、現在の課題などを、毎月打ち合わせをしている。
六原委員	新図書館について、運営する側を含め情報交換がない。協議会委員に話が降りてくるのが遅い。もっと早く相談ができていたらと残念に思う。建物の外観を見るとすごく良いものができる。しかし、外観や新しい使い方も大事だが、やはり人と人がつながっていかないとどんなものも上手く回らない。
倉品委員長	今後、連携を密にしてやってもらいたい。 他の観点では、栄にあるしかけ絵本は新図書館に持ってこないのか。鍛冶ミュージアムが少し大きいので、私はここに持って来るべきだと思う。しかけ絵本日本一をアピールするには絶好の場所だ。栄は駐車場も広いし、いい場所だが、やはりアクセスの面を考えると、離れているなという気がする。他の方からも聞くことがある。街の中、つまりここであれば、あれだけの数のしかけ絵本を実際に手に取ることができる。今の場所だ

	と、親の車に乗っていかなければならないということを少し感じた。
六原委員	子どもを連れてくるとなったら、必ず親は車に乗せて連れて来なくていけない。駐車場も関係がある。栄は駐車場も広い。
恋塚課長	なぜあそこに持ってきたかという、すまいるランドや教育委員会など子育て系の部署もあるため、あそこでできないかというところでやっている。
笹倉課長補佐	幾らかはこちらに持ってきて良いと考えている。
恋塚課長	本自体は、動かして見られるようにした方が絶対に良い。栄に置いてあるからそれで終わりではなくて、月に何十冊はこちらに動かしていきたい。
六原委員	本館でしかけ絵本イベントをしたこともある。そういったように、しかけ絵本自体のアピールは本館でもやりつつ、所蔵は栄にあるというようにした方が良い。
山田委員	児童書のコーナーでは、読む際にお尻をついて読むというイメージで良いのか。
笹倉課長補佐	明確ではないが、お話の部屋については靴を脱ぐ必要があるとは思っている。この階の中で、どこからどこまで靴を脱ぐ範囲にするかというのも一つ検討事項ではあると思っている。
山田委員	靴を脱ぐところに靴を置く場所がある。今の図書館にはすごい不満がある。棚が狭くて小さく、大人の靴も入らない。やはり靴を脱げば靴箱が要る。児童書を読む時、子どもは寝そべる。特に絵本は赤ちゃんがいるため、靴を履いてハイハイはさせられない。絶対靴を脱がなければならない。その場合、後から持ってきたような靴箱を置くのではなく、最初からそういう場所が必要と思う。
長谷川副委員長	この図面でそれはまだ明確ではない。知育プレイゾーンなど、そういうイメージだと思うが違うのか。
笹倉課長補佐	この児童書架の緑色の4段書架の部分は全部靴を脱ぐようにするかなど、何が一番良いのかというのは一度考える必要がある。
六原委員	靴を脱いで上がる雰囲気なことを隈先生は言っていた。私も靴を脱ぐと思っていた。
笹倉課長補佐	どこで脱ぐかだ。最低限、お話の部屋と知育プレイゾーンは脱ぐ必要があるが、それぞれに靴箱を置くのも効率が悪い。もっと手前のカウンター辺りで脱ぐのも良いかもしれない。

山田委員	児童書の壁面の書架の上はガラスか。
笹倉課長補佐	そこはガラスのイメージだ。
山田委員	お話の部屋が西寄りにあるが、午後になると西日がすごいため、西日が入らないようにしてほしい。読み聞かせをする人は壁を背にして立つことが多く、窓に子どもが気を取られお話が難しくなる。
笹倉課長補佐	ブラックシアターといったものもある。黒だけではなく、白いスクリーンなども考えていきたい。
倉品委員長	図書館ハード面だが、履物を脱ぐというところをもう一回説明してほしい。風除室から入った場合どこで脱ぐのか。
笹倉課長補佐	靴を脱ぐのは右側の多目的ホールの風除室4という入り口から入ったときを考えている。読み聞かせ系の大規模なイベントなどができるスペースだ。
松原委員	<p>要望が幾つかある。</p> <p>モニュメントとして、憩いのひろばの図書館側のほうに、噴水を設置してほしい。夏場は非常に涼やかに感じる。また、グラウンド広場の図書館の本館側近く、これは駐車場のバックアップとして使えるので、できるだけ本館に近い場所にしてほしい。</p> <p>科学教育センターと名乗る以上、小学生や中学生たちに興味関心を持ってもらえる仕組みの一つとして、外観に日時計を置けたら、注目していただけるのではないかな。</p> <p>それから、今の時代、公共建築物の上にソーラーパネルを敷かないというのは非常にもったいない。3年後にできるということであれば、RC 屋根の一角の中に置けると、より理科センターを含めた複合施設のようになる。それで一部の電力をいろいろな方法で使用することができる。ソーラーパネルといっても、本当にごく一部の動力しかできないとは思いますが、そういうこともぜひ考えていただきたい。</p> <p>この設計図の中にはないが、盗難防止の一つの方策として、入口付近にバッグ置き場がほしい。盗ろうと思っている人は、必ず袋物に入れる。万引きと同じだが、やはりそういう意識があり、前回話があった年間平均すれば500冊、1,500円とすれば75万円の損失を生んでいる。BDSという装置以外にも、一つのアナログ的な設備としてあっても良いのではないかなと思う。</p> <p>今のAI時代がどういうふうに進化発達していくかはわからない</p>

	<p>い。そういうものを将来想定した配線やコーナーづくりも必要じゃないかと考えている。</p> <p>不明本を減らす方策の一つとして、図書館カードを有償化して、図書館を使う人の受益者負担ということをはっきり意識してもらうのはどうか。また、お金を払うことによって得るものがあるのではないかと考えている。自分の文書には 1,000 円と書いているが、最初は最低 300 円、義務教育中は 100 円もしくは無償という形の中で、新しい図書館はそういう制度政策を打ち出すタイミングではないかと思っている。この辺は館長の方から、全国で有償化をしている事例のメリットとデメリットを情報収集してほしい。</p> <p>貸出期間を終了しても返却しない人の対策だが、実名公表はどうか。もちろん事前に予告してからの実名公表だが、1 か月目は電話による督促をする。2 か月目には「広報さんじょう」に「返却されない方は、3 か月目に公表されますので気を付けてください」という予告をし、3 か月目に公表する。この対応の場合、名誉棄損などで民事裁判になるケースもあるかもしれない。その際に三条市長、公民館長、あるいは教育委員会、生涯学習課が負けるかもしれない。しかし、単純に勝ち負けという問題ではなく、そういう姿勢を示さないと盗難本や返却のルールが確立されないのではないかと考えているので検討してほしい。</p> <p>私の個人的な意見もあるが、今までの間にいろんな人から声を聞いてきた。これからできること、できないことというのはあると思うが、これらの要望をぜひ前向きに考えてほしい。</p>
長谷川副委員長	3 番の新館の図書費について 2,300 万円を年間の新館用図書費として考えているのか。例えば IC チップを埋めることは、実際の図書費ではないが、新しい図書館用に新しい本をどれぐらい買うのか。12 から 13 万冊を全部新しいのを揃えるのかというようなことも含めて、図書費をどれぐらいで考えているのか。
笹倉課長補佐	現状維持の中の引越というイメージだ。
長谷川副委員長	それ用にみんな IC チップを張る作業をして持っていくのか。
今井主任	そのとおり。
笹倉課長補佐	ただ、今後、今の図書館に新しい本を入れるときには、そのチップを入れた形にしたい。
長谷川副委員長	新しい図書館が開館するとなると、全部とは言わないが新し

	い本が入ると思っている人は多い。予算はこれから決めるのであれば、もう少し図書費というものを考えていただきたい。鍛冶関係の本は購入するのか。
今井主任	それについては、今はないので購入予定だ。
長谷川副委員長	この設計図だと書架は 3,000 から 4,000 冊入るようだが、それくらいは揃えるのか。
今井主任	ニーズや鍛冶集団の方の意見も聞きながら揃えていかなければならないため、すぐに揃えることは難しい。
長谷川副委員長	全体で 52 万冊というのはどういうことか。
笹倉課長補佐	分館も含めて全体で 52 万冊になる。新館に開架 15 万冊と閉架 15 万冊で 30 万冊、それとは別に 14 万冊。
長谷川副委員長	現図書館が大体 20 万冊設定だが、現在 25～26 万冊ある。5 年も経たないうちにまた足りなくなるのではないか。基準は満たしているが、冊数の割にもう少し書架の面積があっても良い。やはり 5 年、10 年、経てばすぐに本は多くなる。本を入れていかなければ図書館の機能は発揮できないため少し狭い。自動化書庫があればその分の手が空く。書庫も全部分類で並べるため手間がかかるが、自動化だと自動的に記号で並べられる。お金はかかるが後のことを考えると、このタイミングでしかできない。この後はどうしようもない。
六原委員	自動化は後からできないか。
今井主任	後付けは難しい。
長谷川副委員長	チャンスはここしかない。IC チップが入るなら、そこまでいくべきではないか。
笹倉課長補佐	閉架書庫の棚も電動だとお金がかかるため、これだけは手動の予定だ。
長谷川副委員長	新潟市の書庫は自動化した。これから作るなら自動化を強く要望する。
山田委員	現図書館を書庫として残すという話だが、ここは建物が古い。空調も怪しいにも関わらず、古文書をここに残すと聞いた。古文書はそれこそ温度湿度管理が保管するためには大事だが、現図書館の空調でいいのか。
長谷川副委員長	現図書館の書庫は暖房、冷房の空調はない。除湿だけだ。真夏は 15 分、真冬も 15 分がいるのが限度だ。
山田委員	建物を一つ残すということは、維持管理費がその建物のためにかかる。新しい図書館の 4 階をつくり、そこに置けないのか。

	<p>現図書館は思い切って売却するなどした方が良いのではないかと。古文書は、温度湿度管理のあるところで大切に保管するのが、後世に残すためには大事ではないか。</p>
六原委員	<p>現図書館を使うというが、図書を取りにくる人員が要る。予約制にするという案も出ていたが、燕は新しい図書館ができるまでに予約制にしていた。それは新しい図書館が開館後は廃止され、行けば借りられる、行けばすぐに出してもらえという形になったため、利用者からの不満がなかったと思う。今すぐに読みたいという人はいないと思うが、来て読みたいと思ったときに、「ちょっとお待ちください。こちらは、予約の書籍になっていますので、予約してもう一回来てください。」と言われたら「何で」と思う人もいる。また、雨や雪、炎天下のときも、現図書館に取りにくる職員がいないと用意することができない。本はどんどん増え、新しい本は多く出版され、またリクエストがあれば入ってくる。その分、古い書籍を捨ててしまっても、もともと三条市が、三条市の歴史として取っておかなくてはいけない古文書ばかりではなく、そういうものをきちんと取っておき、「新しいものが入りました。これは古いから捨てます。」ということがないようにしていただきたいので、ゆとりのある書庫が必要だと感じる。現図書館を使うにしても、設備状態を何とかしていただきたい。</p>
今井主任	<p>再利用に当たって、今の状態のままではできないため、何らかの手を入れなければならないとは考えている。先ほど古文書と言ったのは、そこはある程度、貴重な図書として捉えて、温湿度管理のできる場所で保管をしなければならぬと考えており、現在の建物をこのまま使うわけではない。名誉市民顕彰の場といっても、例えば1階のどの場所、2階のどの場所を使うかで、間仕切りが必要になる。空調も老朽化しているため、直さなければならない。そうしていかなければ、この建物は使えないと考えている。</p>
長谷川副委員長	<p>ここにお金をかけるなら、新しい方ということはないか。</p>
笹倉課長補佐	<p>予算組みしているのが、将来的な何十年先になっても三条市の財政が破綻しないためのシミュレーションを実施した上で上限額を定めている。上限の事業費がある中で今までの要望も踏まえて実現できるかどうか検討している。もう枠が決まっている中で、これを実現するためにはこれは落とすとかなど、優先</p>

	順位を決めて行う。そういう段階になっている。
六原委員	有名な隈研吾に頼んだからその分少なくなっているということはないか。周囲はそれを心配していた。
笹倉課長補佐	それはない。限度額を示した同じ条件で、何社からかご提案をいただいている。頼んだというよりは、隈研吾さんたちがやりたいと手を挙げてきている。こちらからお願いしていた訳ではない。
松原委員	山田委員さんが言われた西日対策というのが相当大事だ。今の夏の日差しは猛烈だ。先ほどガラス張りのレイアウトが多いと言われたので、1階であれば、この児童図書館の知育プレイゾーン側から、西側の民間カフェに至る窓ガラスには、シェードを付けないと居られたものではない。エアコンを効かせても強烈な西日が来るはずだ。20年、30年使うのだから、1階および2階、3階も、シャドウのような紫外線をカットできるようなガラスが欲しい。ただ、そういうガラスも、能力がどんどん弱まる。6～7年で買い替えるならいいが20年、30年使うとすると厳しいと思う。
笹倉課長補佐	隈研吾さんは西日対策のことを強調されていた。その結果、この平面図を見ると、西側はトイレ、事務室、閉架書庫になっている。閉架書庫は窓をつくらないので、そういった形で利用者がいる場所には西日が当たらないようにしている。職員事務室やお話の部屋はたまたま西日が入る場所ではあるが、配慮はしていただいている。
倉品委員長	お話の部屋がどれ位のスペースか気になる。行う側としては異空間のような、別世界的なイメージがあると良い。空想の世界で遊ぶと思っている。
六原委員	どこでも読めるスペースも欲しい。
山田委員	広過ぎてても良くない。小じんまりしているのは大事だと思う。変な本棚もなく、狭さはお話に集中できるというのが大事だ。
倉品委員長	緑色の4段書架はない方が良い。
長谷川副委員長	凶面だとある。ここは普段、書架で本が置いてあるのではないか。
山田委員	ないほうが良い。お話をしている時に本を取りに来たら困る。
六原委員	大きいお話会ならば、たまにここを使ってほしいと先ほどの話でなかったか。
今井主任	会議室などもある。会議室は椅子だが、前回の話やお話会で

	使った組み合わせのマットも敷いて、靴を脱いで座っていただくということも可能だと考えている。会議室は少し大きめだが、仕切りやパーティションを設置して小分けで使えるように考えている。
六原委員	みんなの道具がそれぞれ置ける場所がほしい。
倉品委員長	先程これをプレイゾーンと交換するという案が出ていた。
六原委員	どちらにしても、窓が背中にならないほうが良い。逆光になると絵が見えない。だから後ろは何もないフラットのほうが良い。
笹倉課長補佐	ガラスより壁が良いのか。
六原委員	窓よりも壁のほうが落ち着く。
山田委員	このお話の部屋の端の段差について、子どもが座るものではなく、お話する人が少し高いところで、腰を下ろして見せるためのものがほしい。
笹倉課長補佐	以前のイベントでも使っていたが、子どもが座る柔らかい椅子で工夫するような感じだろうか。いずれにせよ、動かせる備品で対応できないか。
長谷川副委員長	それでも良い。
今井主任	ユニバーサルデザインの関係で、段差を極力つくらないようにと言われている。
六原委員	子ども室の下に階段が掘ってあるが結構評判が良い。子どもはトンネルや段差が好きだ。読む人も読んでいる子どももそこに座り、寄りかかりながら読んだりできる。
笹倉課長補佐	逆に知育プレイゾーンをそういう設えにするのが良いかもしれない。そこで読み聞かせをやっても面白いかもしれない。
松原委員	水飲み場を児童用と大人用、2台ほしい。絶対必要だ。この図を見ると、鍛冶ミュージアムに来た人も子どもも使えるよう1階の一番適切な場所にぜひ置いていただきたい。
笹倉課長補佐	それは必要だと思う。
長谷川副委員長	風除室3にもBDSが付いているのか。
笹倉課長補佐	全部付ける予定だ。
長谷川副委員長	ここで鳴ったとして誰が行くのか。カウンターの人が飛んで行くのか。
笹倉課長補佐	児童書カウンターの人が行く。
長谷川副委員長	1、2だと動線で駐車場から行けるが、防災上または防火上

	この入口は必要なものなのか。
笹倉課長補佐	防災上というよりは、歩いて南側から来る人、例えば中央公民館から来る人、中央公民館から歩いてくる人のためには必要だ。ただ、BDS を実験室の上の通路の方に寄せることも考えている。
長谷川副委員長	児童書のカウンターの人があるわけだが、風除室1でもかなり大変だ。サービスとして厳しいと思う。
六原委員	導入している図書館では、実際鳴ったときに遭遇して職員が対応したということは何度もあるのか。そういうときは、どのような形で駆けつけているのか。
石原館長	以前、勤めていた館では、1日に4回、5回ある。その時は施設の設計上2、3メートルほどの所にあり、カウンターから離れていなかった。
長谷川副委員長	今の本館ぐらいなら声を掛けられるが、これはかなり距離がある。
六原委員	もちろん持って行ってしまうというのは万引きなのかもしれないし、その気も無くて、うっかりという人もいるだろうが、施設的に「ちょっと、あなた、盗ったでしょう」というような訳にはいかない。そういった職員の訓練や対応などの問題もある。例えば遠い出口で鳴った場合、大声でカウンターの方から声をかけるなどともない話だ。設置の場所、職員の対応と教育、あと人数だ。カウンターに2人しかいないのに、複数個所で鳴った場合に誰もいなくなる。
長谷川副委員長	館内はカウンターに人がいるだけなのか。他のところには常時人はいないのか。
笹倉課長補佐	そのとおり。
六原委員	ミュージアムがあっても実験室が2つあっても、そこに人が常駐して対応してくれる訳ではないのか。この広さをカウンターで2名か3名かで見ると。
長谷川副委員長	現実的には厳しいというイメージがする。
石原館長	離れていると、サービスの面でお客さまの方が待っている間にイライラする。あるいは何か誤作動で鳴った場合に、「自分は別に貸出処理をしないまま持ってきたわけではないのに」と鳴ったことに対して不快、早く処理してほしいという感覚だ。
松原委員	その中では、誤って持ってきたなんていうケースはあるのか。
石原館長	機械の不具合で発生することもある。

長谷川副委員長	あるにしても、この位置的には少し厳しいと思う。
石原館長	よくあるのが延滞だ。長期延滞者が自動貸出機を利用した場合、貸出できないように機械がブロックし、ブザーが鳴る。そうすると、職員が駆けつけて、なぜ鳴っているのかをその場で検証しなければならない。機械に頼っているところもあるが、そういったイレギュラーな場合の対応には、必ず機械ではなく人間が必要になる。
長谷川副委員長	さらに2階、3階があるため、ここの図書館の現状よりもカウンターの人員は多くないと、サービスは厳しい。
倉品委員長	ただ、この風除室3は公民館の方から歩いてくる人には良い。建物が見えて入れる。正面玄関みたいなものだ。
長谷川副委員長	可能な限り機械を北側に持ってきて良いのではないかと。ただ、結局使わないということにはなりがちだ。
今井主任	抑止力としての意味もある。
石原館長	八戸の時は風除室が2カ所あったが、1カ所あまりに離れていたため、そこをフリーにした。
六原委員	上層部から「付けてあるのに、使わないとはどういうことだ」と怒られるのではないかと。
山田委員	実際に現在本がなくなっている問題がある。そのためにチップを1冊1冊入れているのに使わないとなると不満は出る。それを活用しないのであれば、チップは要らないということになるのではないかと。
笹倉課長補佐	盗難防止だけではなく、チップを入れることにより自動貸出返却ができ、職員の手間も減らせる。
六原委員	Wi-FiはOKなのか。
笹倉課長補佐	そのとおり。
六原委員	駐車場だが、臨時利用40台と書いてあるが、随分グラウンドの方にまで入っている。広場との境を明確にしなければならない。子どもがいた場合、非常に使いにくい駐車場になるし危ない。また、周りの道路について一番聞きたい。一方通行が多く、道は狭い。例えば他所から来られた方、理科実験に来るためにバスが到着する。そういった場合に、道があまりにも狭いところと、一方通行というのと、市としていかがなものか。まずは、自分たちの敷地の方を削らなければならないが、広げることや一方通行ではないようにすることは、市で何か要請を出す可能性があるのか。

笹倉課長補佐	道路管理者である建設課で検討すると聞いている。我々も、この敷地の南側の横の道路、あるいは縦の東側の道路を敷地側に広げれば、一方通行が解除できるのではないかと。そうなれば、中央公民館側の道路は広く、大きいバスも出入りできると考えたが、桜の木が植えてあり、地元の自治会、三条小学校OBから切るなど言われている。移植も検討し、専門家に聞いたところ、移植すると60%の確率で枯れるということだった。
山田委員	私たち幹の会では、二・七の市があるところからは入らないのではないかと言われていた。
笹倉課長補佐	北側はそれについて言われる。
山田委員	北は入れない、東も南も一通で狭い、これはどうするのか。小学校の学校の理科の実験なんて来られない。
六原委員	どのくらい広げれば、一通ではなくなるのか。
笹倉課長補佐	道幅が5、6メートルくらい必要だ。
六原委員	今はどうなのか。
笹倉課長補佐	今すぐにはわからない。
六原委員	桜の木をぎりぎりにするのはどうか。
今井主任	根が傷つく場合がある。
山田委員	除雪は大丈夫なのか。
笹倉課長補佐	周りは消雪パイプで、駐車場も消雪パイプだ。
山田委員	今年は少なかったが、2018年の2月にこの前を通って、北と東の角のところで車が動かなくなった。そんなことがないようにしてもらいたい。
笹倉課長補佐	あの時は消雪パイプも全て井戸枯れしてしまった。冬場に地下水は下がるが、夏の機会に戻る。枯れても戻るが、使い続けると水位が下がりっぱなしになる。
長谷川副委員長	子どもの読書推進計画はどうなっているのか。3月の時は、次年度になったら早々にというご説明をされていたような気がしたが。
今井主任	3月のときには、次年度にはというお話を確かにした。この子ども読書活動推進計画は、新潟県、都道府県の計画を踏まえて作ることになっている。現在、県の動向を探っているところ。
長谷川副委員長	県は3月にできるというような説明だったが、まだできていないのか。
今井主任	県の方はできていない。

笹倉課長補佐	県のものに倣い、それに則る形で市町村のものを作るということになっている。
長谷川副委員長	国はもう出している。それを受けて県が作っていないということか。
笹倉課長補佐	近々、県にヒアリングをする予定だ。
長谷川副委員長	それを準用するしかないけれども、まだ計画は空白のままなのか。
笹倉課長補佐	去年も延伸した形だった。県の動きが見えない中で、また1年やみくもに延伸というものもどうかということで、前のケースだと計画自体は生きているという前提で今動いている。
倉品委員長	それでは館長にお返しする。
石原館長	(閉会のあいさつ)